

運動部活動における活動意識に関する研究

— 中学ソフトテニス部に着目して —

片木 新吾 (生涯スポーツ学科 学校スポーツコース)

指導教員 柴田 俊和

キーワード：活動意識，競技意欲，競技成績

1. 緒言

運動部活動では、生徒、顧問教員、それぞれが目標に向かって活動に取り組んでいる。多くの生徒、顧問教員はその目標を競技会の結果においている。競技会で目標を達成できた者もいれば、目標を達成できなかった者もいる。競技会では必ず勝敗が存在し、競技成績の高い部活動と低い部活動がでてくる。競技成績の差異は、部活動に対する活動意識が大きく影響しているのではないかと考えた。

本研究では、現在、中学校ソフトテニス部を指導していることから、ソフトテニス部に着目して、競技成績が異なる運動部活動の生徒とその顧問教員を対象とし、顧問教員の意識も含めて調査し、活動意識が競技成績にどのように影響するかを明確にし、この結果から競技成績の差異を検討することを目的とする。

2. 研究方法

1) 対象

滋賀県ソフトテニス連盟・中学校体育連盟に加盟している 2014 年における県大会上位校 2 校 (男子 15 名, 女子 12 名), 県大会出場校 1 校 (男子 14 名, 女子 15 名), 地区予選敗退校 1 校 (男子 16 名, 17 名) の運動部員とその顧問教員 (6 名) の計 85 名を対象とした。

2) 方法

日本体育協会の TSMI (競技意欲検査) を構成している 17 因子の内 7 因子についての競技意欲に関する項目と、自由記述式を含む活動意識に関する項目の質問紙調査法を用いて調査を行う。

3. 結果と考察

生徒への競技意欲調査 (TSMI) を基にした競技意欲に関する結果から、競技成績間に大きな差は見られなかった。県大会上位校の部活動は全体的に低い値を示していたが、地区予選敗退校の部活動は高い値を示していた。このことから、競技成績に競技意欲はあまり

影響を与えていないことが明らかになった。また、活動意識に関する項目調査も競技意欲調査 (TSMI) の調査結果と同様に、競技成績間で差は見られなかった。全ての生徒に共通して、「技術力向上」、「試合に勝つ」、「スポーツを楽しむ」という活動意識をもっている。

顧問教員の指導意欲の結果は全ての顧問教員に共通して、「技術向上」が高い値を示していた。しかし、顧問教員は勝利に固執するのではなく、技術を与え、試合に臨む生徒に試合の勝利をゆだねているからであると考える。

4. まとめ

運動部活動の活動意識において生徒は、「スポーツを楽しむ中で技術力を向上させ、試合に勝つこと」、顧問教師は「技術力を向上させること」を第一義的に意識していることが明らかとなった。

本研究の目的である、活動意識が競技成績にどのような影響を与えるかという課題では、あまり影響がないということが明らかになった。生徒、顧問教員に質問紙調査で、競技成績の異なる部活動に調査を行ったが、すべての生徒、顧問教員の結果はほぼ共通の回答となった。生徒と顧問教員の活動意識が一致していても、競技成績が高い部活動もあれば、競技成績の低い部活動もある。そのため、活動意識は競技成績にあまり関わっていないといえる。しかし、それでも成果は異なっている。成績結果が異なるということは、部活動を行う上で何か違いが生じているからだと考えている。活動意識が競技成績に全く関係がないとは言い切れない。今後、研究方法を考慮し、調査の結果が目的のものになるよう研究を行っていく必要がある。

引用・参考文献

1. 松田岩男・その他 (1981) スポーツ選手の心理適正に関する研究, TSMI 実施手引. 1981 年度日本体育協会スポーツ科学研究報告書.
2. 文部科学省 (1998) 我が国の文教施策.